補中益気湯

『内外傷弁惑論』

医療用 有

構成生薬と薬能

黄耆・人参・白朮・甘草・生姜・大棗・陳皮・当帰・柴胡・升麻

補中益気湯の主薬は**黄耆**である．

黄耆・人参・白朮・甘草・生姜・大棗・陳皮		
四君子湯－茯苓＋黄耆（≒大四君子湯）＋陳皮 元気を補い消化吸収機能を高める 陳皮は弛緩して低下した消化管運動の改善（行気）作用と健胃作用		
黄耆・柴胡・升麻	**黄耆・当帰**	**黄耆・人参・当帰**
昇提作用 筋肉のトーヌスの正常化 アトニー状態の改善 （中気下陥の改善）	自汗・盗汗を止める	肉芽の発育促進 難治性潰瘍や褥瘡の 治癒を早める

補中益気湯はこんな方剤

補中益気湯は**大四君子湯**（四君子湯加黄耆）に健胃作用の**陳皮**を含んでいる．したがって気虚の方剤である．他の四君子湯類と最も異なるところは**黄耆**を主薬とし**柴胡・升麻**を加えた点にある．**黄耆**に**柴胡・升麻**を配合すると，弛緩した筋肉のトーヌスを正常にする作用がある．**黄耆**を単独で使用するよりも効果が強くなる．そして，胃腸の弛緩性蠕動運動低下，脱肛，直腸脱，膀胱麻痺による尿閉，括約筋の緊張低下による失禁などに用いる．このアトニーの状態を中医学では「**中気下陥**」と呼び，これを引き上げる作用を「**昇提**」といっている．また，**黄耆**は体力が低下し，自汗・盗汗のあるときに用いる．**黄耆**と**当帰**に**人参**を配合したものは肉芽の発育を促進させる．

補中益気湯
||

升提作用……弛緩した筋肉のトーヌスを正常化

↓

黄耆 ＋ 柴胡 升麻

補気作用・消化吸収機能を高める

↓

四君子湯去茯苓＋黄耆（≒大四君子湯）＋陳皮

黄耆 人参 白朮 甘草 生姜 大棗 陳皮

自汗・盗汗を止める

↓

黄耆 当帰

肉芽の発育促進

↓

黄耆 人参 当帰

✹ 適応病態 ✹

❶全身的な体力の低下
❷免疫機能の低下による感染症の予防
❸慢性疾患・慢性炎症の慢性化要因に気虚が想定される場合
❹骨格筋，中腔臓器の平滑筋・括約筋の緊張低下（弛緩性）
❺抗癌剤・放射線などの副作用の予防

✹ 適応疾患 ✹

❶**急性疲労・慢性疲労**……肉体的・精神的な疲労で，倦怠無力感，手足がだるいなどが診られるときには，体力の有無に関わらず本方を用いる．頑健なものが無理をして生じる急性疲労には1服あるいは数服でよく，虚弱者の慢性疲労には回復するまで連用させる．

❷体力の低下

①**病後**……病後で体がだるくて起きられない，ウトウトしていつまでも寝ていたい，手足がだるい，倦怠感，自汗・盗汗などが診られたり，仕事をするとすぐに疲れる，出勤する元気がないなどの，十分な体力の回復がないとき，あるいは退院時で体力が十分でないとき．食欲不振・嘔気があるときには**六君子湯**がよい．

②**手術の前後**……体力が弱っているときに術前に用いる．また術後に体力の回復を目的に用いる．胃手術後の貧血，ダンピング症候群などの予防や治療に使用する．手術後の吃逆，膀胱まひ，尿や便の失禁に用いる．

③**夏まけ**……暑さのため体がだるい，疲れる，食欲不振などが診られるとき．

④**妊娠中**……虚弱者・アトニー体質の陣痛微弱や弛緩性出血の予防の目的も含めて使用する．低蛋白血症や貧血の立ちくらみ・耳鳴・心悸亢進に応用する．妊娠浮腫・妊娠腎・妊娠中毒症などの予防と治療には，**当帰芍薬散**エキスと**香蘇散**エキスを合方して用いる．

⑤**産後**……産後の体力回復に**芎帰調血飲**と併用する．産後の脱肛・子宮脱にも用いる．

⑥**皮膚の化膿症（内托の効）**……炎症症状が少なく，化膿しても潰れず，また潰れて肉芽が上がってこないなど，治りにくい場合の皮膚の化膿症（癰，瘡）に応用する．

❸アトニー体質（中腔臓器の弛緩性運動低下，括約筋の緊張低下，筋肉の緊張低下）

①**胃・腸アトニー**……消化管の筋緊張や運動が低下し，食欲不振，腸内ガス排出が不十分なための腹部膨満感，弛緩性便秘などが診られるときに**補中益気湯**を中心に運用し，時に**麻子仁丸**や**理気剤**を併用する．**補中益気湯**は脾胃の虚，中気下陥の者に用いるのであるが，これらの者は，便秘もすれば下痢していることもあり，腹痛や嘔吐の場合，

浮腫もあれば逆に脱水のこともある．本方を中心に病態に応じて応用する．

②**眼精疲労・弱視**……体力・筋力の虚弱なものは，眼筋も弱く疲労しやすい．眼精疲労を起こして調節に時間がかかりピントが合いにくくなる．また，近視の子供に視力回復の目的で遠方と近くを反復して見させる訓練をするが，これによってますます眼筋が疲労して調節できにくくなることがある．このような状況に用いるとよい．

③**括約筋の緊張低下**……肛門括約筋・膀胱括約筋の緊張低下があると，腹圧が加わったりひどく笑ったりすると尿や便を漏らしたり，尿意や便意をもよおすとトイレまで我慢できないことが多い．また，ガスを出そうとして大便が出たり，硬い便では大丈夫だが下痢便で失禁したりする．このような状態に用いるとよい．括約筋の弛緩による脱肛にも用いる．

④**膀胱の収縮力低下**……膀胱の緊張と収縮力が弱いために，いっきに排尿できず途中で休止して排出する二段排尿で二段目が滴下する場合，あるいは軽症で尿線が弱く排尿時間が延長する場合に用いる．

⑤**子宮脱**……子宮支持組織の弛緩による子宮の脱垂に用いる．

⑥**声帯の弛緩**

❹**薬物の副作用防止**……抗生物質・抗ガン剤・消炎剤などによる肝臓障害・胃腸障害・貧血の予防に用いる．**人参湯・六君子湯・小柴胡湯**などでもよい．下痢するときには**五苓散**を併用する．

❺**放射線・コバルト照射の副作用防止**……放射線による宿酔などの副作用を抑え，元気に治療を完了することができる．

❻**その他**

①**アトピー性皮膚炎**……主に小児期，成人でも適応する場合がある．

②**皮膚感染症の予防**……ヘルペス，伝染性軟属腫，伝染性膿痂疹，多発性感染膿瘍，尋常性毛瘡などを繰り返す者に用いる．

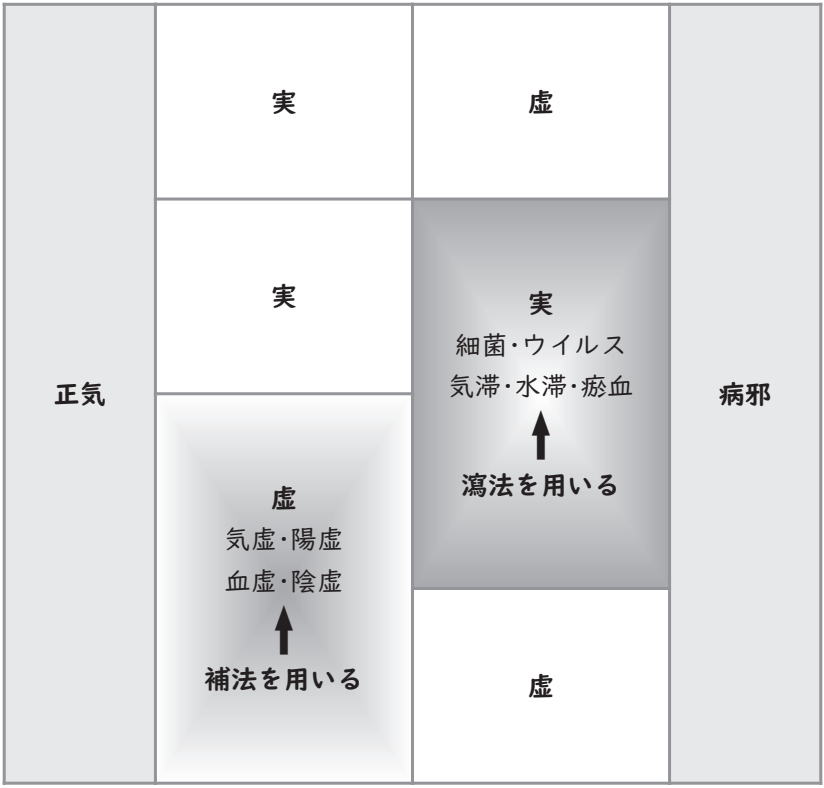
●ここで虚実の定義を明確にしておこう

虚と実についての定義を明確にしておく必要がある．何故なら治療法が異なるからである．

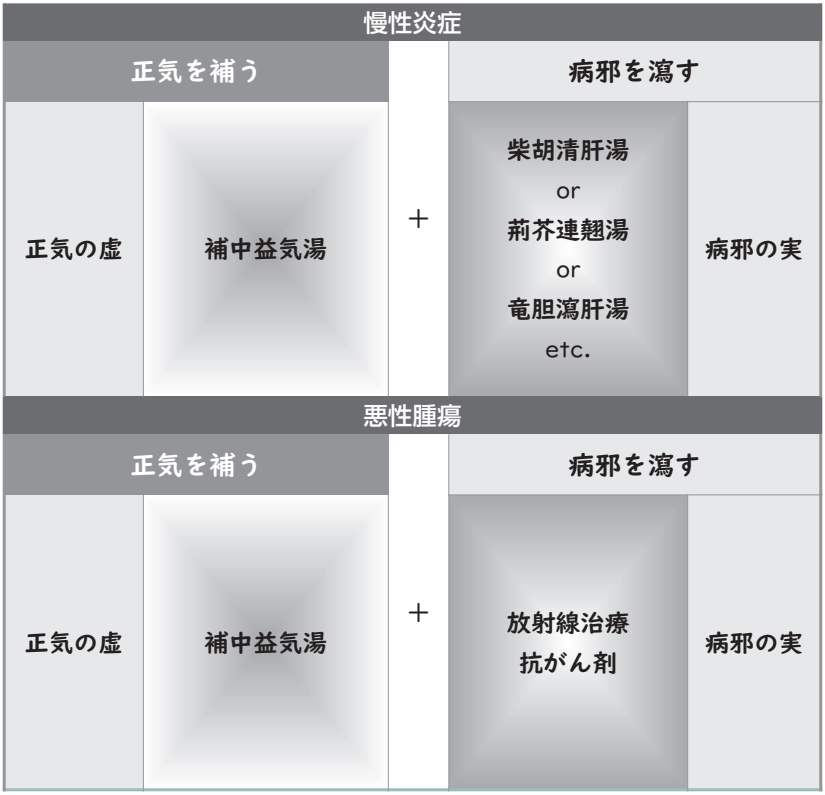
虚と実は，正気にも病邪にもある．しかし治療においては「正気の虚」が問題であり「病邪の実」が問題になる．「正気の虚」は補う，即ち補法を用いる．「病邪の実」は瀉法を用いる．

「正気の虚」とは，気虚・陽虚・血虚・陰虚に分かつ．「病邪の実」とは，細菌・ウイルス・気滞・水滞・瘀血などである．

正気にも虚実があり，病邪にも虚実がある
治療では“正気の虚”と“病邪の実”が問題になる



慢性疾患・慢性炎症の漢方治療では正気に対する配慮が必要であり
補中益気湯を兼用・合方することが多い



臨床の実際では，「正気の虚」と「病邪の実」とが同時に共存していることが多い．特に慢性疾患では「病邪の実」とともに「正気の虚」に対する配慮が必要である．

慢性疾患の気虚に対しては**補中益気湯**を用いることが多い．病邪に用いる処方に対して**補中益気湯**を合方あるいは兼用することが多い．また，放射線療法や抗癌剤療法は正気を傷つけるので，その防止のためにあらかじめ投与しておくこともある．

漢方治療において，慢性炎症に**柴胡清肝湯**や**荊芥連翹湯**，**竜胆瀉肝湯**などを用いる際に**補中益気湯**を合方するのは，正気に対する配慮である．